

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	名古屋市立高蔵小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	花いっぱい、学びいっぱいの学習を目指して

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動に至る経緯

本校教育活動の中核を担っているものの一つに「花いっぱい運動」がある。「花いっぱい運動」は45年以上続いており、児童が育てたチューリップの花は、学校だけでなく、駅や公園、警察署、区役所などを彩っている。この「花いっぱい運動」が、本校の教育目標でもある、人間性豊かな児童の育成につながるよう継続するとともに、高蔵の町づくりや地域貢献にもつながるよう実践にしていきたい。



【4月の校内花壇】

2 活動のねらい

昨年度、本校では「人間性豊かな高蔵っ子の育成—児童の興味・関心を生かした「花いっぱい運動」をめざして—」をテーマとして、花いっぱい運動を軸に、生活科・総合的な学習の時間の教育課程を編成し、児童の興味・関心を生かした学びを展開してきた。その結果、学校教育アンケート「保護者や地域とのつながりを意識しながら、花いっぱい運動に取り組んでいる」という項目において、児童・保護者ともに88%以上がプラス評価をした。これは、児童が自らの課題をもち、その課題解決に向けて探究的な学びを進めることで、主体的に花いっぱい運動に取り組むことができたからだと考える。また、保護者や地域の方々の協力のもと、学校創立150周年記念行事として地域花壇にチューリップを植えたことで、例年以上に花いっぱい運動が活性化したからだと考える。

しかし、これらの活動を通して、どのような力を身に付けさせたいのかが不明瞭な学習展開も見られた。これは、単元の終末に目指す児童像や資質・能力が明確ではなかったからだと考える。この資質・能力は、地域への愛着心と直結するものであり、未来を担う児童の学力として、ぜひとも身に付けさせたいものである。

そこで、本年度は、生活科・総合的な学習の時間を軸にして、花いっぱい運動と各教科を関連させた指導計画を立てるとともに、その学習を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にして、地域への愛着心を育んでいきたい。

3 活動内容

(1) 全児童「一人一鉢」（生活科・総合的な学習）

自分の鉢でチューリップを育てる「一人一鉢」という活動を充実させるために、富山県花卉球根農協組合の方を招いて、十数種類のチューリップを紹介してもらった。球根には値段（もしくはコイン1～3枚）も付け、3～6年生は300円まで、1～2年生はコイン3枚まで買うことができるようにした。組合の方の話を聞いて「プライスタンスユニカムは一つの球根から2～3つの花が咲くからいいね」「値段は高いけど炎のダンス1つを大切に育てたい」と、自分で球根を選べるようにしたことで、自分なりに思いをもって一人一鉢の活動に取り組み始めた。



【選ぶことができるチューリップとその値段の一部】

(2) 生活科「チューリップいっぱい（1年生）、チューリップはっけん（2年生）」

1年生は、対象（チューリップ）とじっくり関わり、チューリップが球根から育つことや、世話が上手になった自分に気付くことを目指した。2年生は、町を彩る地域花壇と繰り返し関わり、自分の町に暮らしている人がチューリップでつながっていることに気付くことを目指した。

1年生は、生活科の授業の中で、球根に聴診器を当てたり、箱の中に入って土の中をイメージしたりして、体験を通して球根の気持ちを考えた。球根に寄り添って、一人一鉢に使う鉢に絵を描いたり、球根に名前を付けたりして、自分たちのチューリップへの思いを高めた。



【1年生：植木鉢に絵を描く様子】

2年生は、地域花壇探検に行き、高蔵の町にはチューリップが咲く地域花壇がたくさんあることに気付いた。また、町の人に地域花壇のよさについてインタビューしたり、町を彩るチューリップのすてきについて発信したりする中で、「町のすてきをもっと伝えたい」という思いを高めた。

(3) 総合的な学習「めざせ！チューリップマスター（3年生）、めざせ！花いっぱいすてきマスター（4年生）」

3年生ではチューリップの生長過程や育て方、4年生では花いっぱい運動の歴史や花いっぱい運動に関わった人々の思いに気付くことを目指した。

3年生は、十数種類のチューリップの球根を校内の花壇に植える活動に向けて、「チューリップの育て方を調べよう」という学習課題を設定した。チューリップの育て方を調べる中で、よく分からなかったことや疑問に思ったことについて、富山県花卉球根農協組合の方にオンラインで直接尋ね、解決することができた。

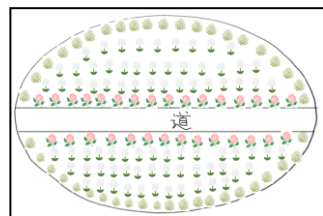


【3年生：オンラインで専門家に質問する様子】

4年生は、花いっぱい運動の魅力について、身近な人々があまり知らないことに気付き、調べて分かったことを誰にどのように発信するとよいか考えた。そして、「町の魅力を広げたい」という思いを高め、探究し続けた。2年間かけて、探究的な学習の進め方（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を身に付けることができた。

(4) 総合的な学習「めざせ！デザインマスター（5年生）、めざせ！地域貢献マスター（6年生）」

5年生は、地域花壇のデザインを検討し、地域花壇や花いっぱい運動の大切さに気付くことを目指した。まず、異学年の仲間と編成される方面別登下校集団（分団）における5年生のメンバーで地域花壇のデザインを検討した。今年度は、1㎡あたり1500円で球根や苗を自由に選べるようにした。予算を考えながら、どのようなデザインにすると、地域の方々にとってよりよい花壇になるかを真剣に考え、デザインすることができた。



【5年生：予算を考えながらデザインする様子と、考えたデザインの例】

6年生は、地域の一員として、花いっぱい運動に関わり、地域活性化のために互いに連携・協力することの大切さに気付くことを目指した。まず、花いっぱい運動を中心にどのような地域貢献ができるかを考えた。1㎡あたりの予算が増えれば地域花壇のチューリップでいっぱいになり、地域の人々が笑顔になるのではないかと考え、資金源となるチューリップバザーの商品の値付けをすることになった。「町に貢献したい」という思いを高め、身近な人にチューリップバザーに来るように呼び掛け、自分たちができることを実行することができた。



【6年生：バザーの商品に値付けをする様子】

4 子どもたちへの効果

それぞれの学習を終えた児童からは右のような声が挙がった。これは、自らの課題を持ち、その課題解決に向けて仲間や地域と協働しながら「花いっぱい運動」に探究的に取り組んだことで、自分の住む地域に愛着と誇りをもつとともに、探究的に学ぶ力も身に付いたからであると考える。また、児童は、異学年の仲間や専門家、地域の方々とは絆を広げ、地域の中に自分たちの役割を見だし始めている。今後も、高蔵小学校は児童がより良い環境の中で学びを深めていけるよう、「花いっぱい運動」を継続・発展させていく。

- 他の学校にもこの活動を広めたい。
- 地域でチューリップマスターを引き継ぐ人が出てきてほしい。
- 花いっぱい運動の歴史を知り、高蔵小を誇りに思う。
- 花いっぱい運動の伝統を守っていききたい。